

今週の話題：

&lt; コレラ 1999 &gt;

1999年のWHOへの公式報告では、61カ国から254310人の罹患と、9175人の死亡が報告された（罹患患者数；対前年比13%減）。

## \* 伝染と集団発生のパターン

アフリカ大陸：28カ国から206746例（全世界の81%）の報告（前年に比べ若干減少）。罹患患者数に対する死亡者数は4.2%であった（前年と同様）。特に罹患患者数が増加した地域は南アフリカで、この大陸全体の52%を占める。ソマリアでは、症例数は前年に比し4倍に増加（17757人）し、新しい地域で多発していた。長年コレラに無縁だったマダガスカルも1999年末までに9745人の罹患、542人の死亡が報告された。

アメリカ大陸：12カ国から報告（前年；16カ国）。前年に比べコレラの罹患患者数は減少し、8126人の罹患と103人の死亡が報告された。減少を示した国は南米西海岸のコロンビア、エクアドル、ペルー。ブラジル、エルサルバドルでは罹患患者数が増加した。米国では2、3例の輸入例が通知された。

アジア大陸：罹患患者数は増え続け、39417人（対前年比：61%の増加）の罹患と344人（対前年比：2倍）の死亡が報告された。アフガニスタンではアジア全体の60%の24639人が罹患（前年に比べ150%、1997年に比べ6倍の増加）。その他、カンボジア、中国、等から報告。1992年末にベンガル湾で発見された新種のV.cholerae O 139は、東南アジアに限局し、その後も10カ国で検出され、コレラ常在地区のアジアでは判断されたコレラ罹患患者の約17%を占めていた。

ヨーロッパ大陸：5カ国から報告（前年；10カ国）。罹患患者数は前年より減少し、わずか16人の罹患（殆どが輸入例）死亡例なし。罹患患者のうちロシア3人とウクライナ2人は国内感染症例。それ以外の国では、オーストリア、ドイツ、オランダから輸入感染症例の報告があった。

オセアニア大陸：5人（オーストラリア4、ニュージーランド1）の罹患報告。すべて輸入感染症例。

## \* コレラワクチンの最新情報

その背景：

現在、3種の経口コレラワクチンが主に旅行者用に用いられているが公衆衛生分野での使用は考慮中。

WC/rBS ワクチン；このワクチンは、フィールド試験によって、ワクチンを隔週で2回投与した後、85～90%の予防効果を示した。しかし予防効果は、幼児では、6ヶ月後に急激に低下するが、年長児や成人では、2年後で約60%、3年後でも50%維持されていた。

WC/rBS 変異ワクチン；このワクチンは、ベトナムで1992～1993年にかけて隔週2回投与のフィールド試験が実施され、8ヶ月時点で66%の効果を示した。

CVD103-HgR ワクチン；一回投与における偽薬試験では安全性と免疫性が示された。しかし、インドネシアでの大規模なフィールド試験では、長期にわたりコレラに曝された住民に対しては満足な効果が得られなかった。

緊急時の有効な活用法：

1999年5月、WHOは緊急時の経口コレラワクチンの有効な活用法について専門会議を召集。衛生管理とコレラ対策に焦点を当てた従来の勧告では、正しく使用されれば効果的だがそれらを遂行していくことの難しさが認識された。伝統的コレラ対策を補完する新戦略を見出す必要があり、次の勧告を行った。

- ・ WC/rBS ワクチンは、6ヶ月以内にコレラが流行する危険性のある地域住民に対する予防策のひとつとして考えるべきであり、現在流行中のものに対して実施するべきではない。
- ・ ハイリスク住民に WC/rBS ワクチンを使用するには、少なくとも二百万回分のワクチンが備蓄されているべきであり、使用後ワクチンは速やかに補給されなければならない。
- ・ WHO 事務局の諮問団は、コレラワクチンの備蓄管理について責任を負う必要がある。
- ・ 備蓄されたワクチンを使用する場合は、その公衆衛生上の効果判定を併せて実施する必要がある。

表1：コレラ症例数と死亡例数、1999年 図1：コレラ報告のあった国・地域数/総報告数、1990～1999年

流行ニュースの続報：< インフルエンザ >

オーストラリア（2000年7月28日）<sup>1</sup>：7月第3週にニューサウスウェールズで最初の集団発生が起こり、インフルエンザウイルスA型とB型が検出された。

ブラジル（2000年7月22日）<sup>2</sup>：地域発生してから8週にわたり、引き続きインフルエンザA型ウイルスが検出されていた。流行が始まって以来、A/NewCaledonia/20/99(H1N1)様、A/Sydney/05/97(H3N2)様、B/Yamanashi/166/98様ウイルスが確認されていた。

香港（2000年7月26日）<sup>3</sup>：この月に検出数にわずかな増加が見られた。しかし、前年の同時期に比べその活動性は低い。そのほとんどがインフルエンザA型、サブタイプA(H3N2)ウイルスであった。

ニューカレドニア（2000年7月27日）<sup>4</sup>：7月第3週に、2種のインフルエンザA型ウイルスが散発的に検出された。参照：<sup>1</sup>No.26、2000、p.216。 <sup>2</sup>No.25、2000、p.208。 <sup>3</sup>No.4、2000、p.34。 <sup>4</sup>No.24、2000、p.196。

